

道徳の勉強会報告 2

2014.6.9

愛知教育大学教授 鈴木健二先生を招いて学んだこと

1 授業を行うためのクラス経営の大切さ

子ども達同士、子どもと先生が本音を言い合えるような関係が保たれていることが切である。中学校などでは、思春期の子ども同士なかなかそういった関係が作れにくい。その関係作りに教員はもっと心血を注ぐべきである。

2 道徳の授業において「キーワード」にせまる言葉の理解を大切にする

今回の授業では、「後世に伝える」というキーワードについては、目の付け所がよい。それをどれだけ、子どもに認識させていくのかが大切。「これってそういうことか」が見えてくることである。授業に深まりが必要で、授業者は何を深めなければならないか事前に考え準備しておく必要がある。多くの授業を見るが、認識が変わっていないことが多い。最初の感想をとったときと最後の感想をとったときでは、そこに表れる変化が評価につながる。

3 そのままにしておけない意見について

子どもから感想を聞くと、突拍子もない感想が出ることがある。それがそのままにしておけない意見である。そのままにしておけない意見については、立ち止まって考える必要がある。その場合の一つの方法として、他の子どもに聞いてみるとよい。聞かれた子ども達は、反論するためにきっとモチベーションはあがるはずである。そうではない理由を聞くことで、言った子も納得するはずである。ただし、クラスの土台がしっかりしていることが大切で、しっかりしていないと難しいこともある。

4 郷土の偉人を扱うポイント

郷土の偉人を扱うとすごい所ばかりになりがちである。美化されすぎてしまう。美化されすぎると親近感がなくなる。人間くささがほしい。「やめようと思ったことはないか」「なぜそこまでやったのか」など葛藤場面も交えながらマイナスの面にも触れながら教材を作る。それをどう引き出すか…

5 インタビューの仕方

その人の内面を覗くことができるかがインタビューの成否に関わってくる。インタビューの仕方を学ぶには、阿川佐和子さんがよい。するどい突っ込みによって、中身に迫っていける。道徳をつくるキーワードが見つけれられる。一度のインタビューでうまくいかない場合は、別の日に内容を指定して語ってもらうことがあってもよい。

6 45分で3つの話は多いかどうか

重要な部分をしっかり考え、共有化していくならば多いかもしれない。あせると大切なところであっても軽く扱わねばならなくなる。

例えば修行についてであるが、山崎さんは3年。本来だったらもっと長くかかったは

ずである。小関さんは、何年かかったか分からない。もしかしたら未だに終わっていないかもしれない。徳倉さんは9年と言っているが、基本が身についただけのことを言っているかもしれない。そういったことを考えさせることも、日々努力という言葉の理解につながる。

7 これから子ども達が行う取材について

どうしても聞きたいこと…Aランク、次に聞きたいこと…Bランク、時間があれば聞きたいこと…Cランクというように、質問のレベルを考えさせることも大切である。認識をしないことには、質問も出ないし分からない。そのための準備が大切である。

8 読み物資料を配るかどうか

読み物資料をどう扱うかによって、配るかどうか判断すべきである。効果的である法を選んでほしい。

9 本時のめあてを板書するかどうか

いろいろな意見がある。どうしても必要だという人もいれば、そうではないという人もいる。結果的にめあてが達成されたかが大切である。めあてを書くとそれだけで満足をする人がいる。大切なのは、子ども達がそのめあてを考えたいと思ったかであって、強引に書かれても「なぜそんなことを考えるのか」と思えるようなことではいけない。私は、めあては示さない。

10 教師の教材研究について

NHKのスペースシップアースの未来という番組を見ると、まさに宇宙船地球号なのだが、住環境を客室、燃料を資源としてとらえている。今客室という限られた空間が膨れあがり過ぎている。この番組を見ると、今後どうしていくべきなのかについて学ぶ事が出来る。つまり、視野が広がる。

Eテレのスーパープレゼンテーションという番組は、授業づくりと一緒にある。限られた時間の中で、どのように聞き手に訴えることができるかについての刺激が受けられる。宇宙の歴史を13分で語るプレゼンがあったが、宇宙の成長過程が常に一定の状態で膨れあがっているのではなく、ある場面では停滞し、それがあることがきっかけで次の次元へとシフトする。そうして、宇宙は膨れあがってきた。地球だって同じで、生命の進化もこれと同じである。宇宙と生命の進化に共通性があるなんて思うととても興味をもてた。このように、教師はさまざまなことに興味をもち、子ども達にそれをいろんな機会に話してあげることが大切である。